

第105号 (季刊)

平成25年1月

田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>


平成25年の新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。また、平素から町内会運営にご理解とご協力賜り心より感謝申し上げますと共に、本年もどうかよろしくお祈り致します。

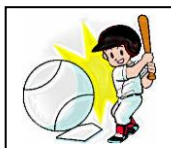
昨年、特に記憶に残った出来事

滋賀県のいじめによる中学生の自殺である。大きく度々報道された。学校、教育委員会、自治体、また文部科学省も在り方を問われてきた。実態の詳細はまだはっきりとされてないが、あつてはならない事。今まではいじめ等の実態が表ざたになると、学校側はマイナス評価されてきたようだ。

これらの防止策の指針として、最近、文部科学省から「いじめ」に気づいたり、知り得たら先生は校長に、校長は教育委員会に、教育委員会は文部科学省に報告する。これらの報告により各セッションがプラス評価される仕組が発表された。これが本来の姿では？ これからはいじめ問題がなくなっていくことを祈るばかりである。

将来を担う子どもたち

昨年の11月、久しぶりに子ども会のソフトボールの練習を観た。



外野を守る子どもの一人が、連係プレーがうまく出来なかったのかコーチからかなり長時間注意され叱られていた。子どもはコーチの言葉に、「ハイ、ハイ、・・・」真剣に答えていた。ところがコーチは突然、「おまえは交代、本塁の所へ帰ってけ」その子どもは本塁方向へ向かう途中から、自分のプレーがうまくできず悔しかったのか、叱られて辛くなったのかグローブを持ったまま、声は出さず一人で泣きじゃくっていた。それから5～6分後、そのコーチから大きな声で「レギュラーの連係練習する。〇〇、元のポジションに着け

えー！」その子は、さっきの出来事はなかったように、水を得た魚のごとく一目散に自分のポジションに走って行った。子どもへの叱咤と思いやりのコーチの使い分け、また子どもの野球に対する向上心には感心した。子どもが育つ環境は、「家庭、学校、地域」といわれるが、これぞ地域で育つ一場面であったと云えるだろう。子ども達を地域みんなで見守っていきましょう。

自主防災に備えよう

一昨年のあの甚大な東日本大震災の発生に基づく反省から、全国的に地震、津波、火災、風水害等に備えた対策がクローズアップされてきている。そこで、当町内独自なものとして暫定的ではあるが行政から定められている避難場所の他に、次の場所を指定することが出来た。了解を下さった施設管理者の方、マンション所有者の方には改めてお礼を申し上げます。

※従来からの避難場所、3ヶ所。

・御南西公民館・御南中体育館・御南小体育館

※今回新たに決まった一時避難場所、4ヶ所の階段及びおどり場付近。

- ① 3階建、警察官舎
- ② ポリテクセンター岡山
- ③ エバンスワケⅡ (和気章一さん所有、田中野田グラウンド北、1組)
- ④ チスカワケA (和気輝明さん所有、2号公園東、3組)



今年は巳年

蛇は神の使いとされたり、成長の過程で脱皮をする為「復活と再生」の象徴とする考えや、執念深いと思われたいという見方があるようです。「一步一步前進」あるのみ。